ほぼ週刊コラム　Partnership論　その２１８

**シリーズ：『米国Partnership税制勉強会』**

**第三十回勉強会（通年内容は**[**年表rev.9**](http://llc.a.la9.jp/Papers/evolution%20history/evolution%20history%20of%20US%20partnership%20taxation%20rev9.ppt)**参照方）の準備**

**Singularityを越えたAIが招く未来社会を人間が予測しようとするのは、
人間社会の未来をお猿さんが予測しようとする様なものかもしれない。**

20161215 rev.1 齋藤旬

 [**Inventing the People**](https://www.amazon.com/Inventing-People-Popular-Sovereignty-England/dp/0393306232/ref%3Dsr_1_1?ie=UTF8&qid=1477553338&sr=8-1&keywords=Inventing+the+People)**の半訳作業ファイルwork8を**[**和英混訳**](http://llc.a.la9.jp/WaEi%20KonYaku.htm)**のコーナーにアップした。**

1．The Divine Right of Kings　神授王権 18-19

今週はこれらを和訳した。

　**さて、第四次産業革命をひと言で言うなら何となるか考えてみた**。それは[Singularity](https://en.wikipedia.org/wiki/Technological_singularity)、[技術的特異点](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8A%80%E8%A1%93%E7%9A%84%E7%89%B9%E7%95%B0%E7%82%B9)、AIが人間のcapabilityの幾つかを越えること。これが第四次産業革命だと今週は敢えて捨象してみよう。即ち、「将来予測」が人間には出来なくなる。第四次産業革命にどう対処すれば良いのか人間には分からない、ということ。

Wikipedia[技術的特異点](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8A%80%E8%A1%93%E7%9A%84%E7%89%B9%E7%95%B0%E7%82%B9)では、「[未来研究](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%AA%E6%9D%A5%E7%A0%94%E7%A9%B6)においては、正確かつ信頼できる、人類の技術開発の歴史から推測され得る未来モデルの限界点と位置づけられている」と述べている。ブッチャケ言うなら表題のように「お猿さんが･･･」ということかもしれない。

**では、第四次産業革命を迎えるにあたり人間に出来ること、というか、「これだけはやっておくべき事」は何もないかというとそんなことはない**。ヒントはcapability、即ち「特定のtalentによって可能となる行為能力」。これは[このPPT](http://llc.a.la9.jp/Papers/Kyushu%20Univ/Which%20has%20Innovative%20capacity%20at%20its%20disposal_a%20corporate%20or%20a%20partnership%20rev2.pptx)の3page目などで何度か説明しているのでお分かりかと思うが、人間のpowerをability, capability, capacityと分類したときのcapability。

英語Wikipedia [Singularity](https://en.wikipedia.org/wiki/Technological_singularity)にこの用語capabilityが使われていることを確認して頂きたい。なお、日本語Wikipedia[技術的特異点](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8A%80%E8%A1%93%E7%9A%84%E7%89%B9%E7%95%B0%E7%82%B9)ではそれは「能力」と和訳されてしまっていて「これだけはやっておくべき事」のヒントが得られない。

　**「これだけはやっておくべき事」、それは或るcapabilityのbrush up**。人間には備わっているが機械やrobotには備わっていない、または、備えるのが難しいcapabilityをbrush upすること。それは何か。[コラム２１６](http://llc.a.la9.jp/Papers/Pope%20Francis/2016%20Davos%20rev3.docx)に挙げた教皇メッセージを思いだそう：

私達は決して、繁栄の思想に腐心してはなりません。それは私達のcapability（特有のtalentによる行為能力）を奪い、「貧しい人々の叫びに共感を持つことも、他の人々の痛みを感じて泣くことも、それらの人々を助ける必要性を感じることもできなくしてしまいます。あたかも、それは誰か他の人がresponsibilityを負うべきこと、私じゃない、かの如くです。」【[*Evangelii Gaudium*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20131124_evangelii-gaudium.html) 54】

つまり、ひと言で言うならば「心」。言い換えれば、良心、conscientiousness、善悪discernment（心の目による識別）、これこそ人間なら持てるが機械には難しいcapabilityだ。

　**第四次産業革命を迎えるにあたり「これだけはやっておくべき事」は、心の研究、心の鍛錬**。従って、宗教、哲学、心理学、脳科学、精神医学、AI, Quantum Computingなどの研究分野が重要になってくると共に、人々の日常生活においては「人々の叫びに共感を持ち、他の人々の痛みを感じて泣く」心の鍛錬が重要となってくる。

　恐らく「心」はどんなに研究し鍛錬してもthis worldにおいては完成することはない。つまり間違いのない善悪判断はこの世の者には不可能なのだろう。言い換えれば、私達人間にはまだまだやるべき事が沢山ある。

　元**エンジニアとしてはもうひと言**。「robotが持つのは難しい」を撤回して、鉄腕アトムやドラエモン、アシモフ『われはロボット』のサニーなど（不完全ながら）良心回路を備えたrobotは実現可能かもしれない。

　だとすると、第四次産業革命後の社会は、人間とrobotが様々に対話してそれぞれの不完全な良心を補い合って営む社会なのかもしれない。

･･･というか、これが実現できないと、良心を持たないAIどもが世の中を席巻してしまう。それらがSingularityを越えた途端、映画「ターミネーター」に出てくるcomputerスカイネットが支配する世界のように恐ろしいことになる。

つまり、心の研究を進め、「不完全、なのに守っているか不安になり、信頼できる相談相手や異なる意見を持つ者を常に求め、出来る限り熟慮に熟慮を重ねざるを得なくなる」良心をAIに持たせることは、必達事項、a mustなのだと元エンジニアの私は思う。

今週は以上。年内は来週さ来週、さらに1月第一週も休刊、次号は1月13日(金)予定。

35年間の会社勤めを終える来春。会社の会議室を使っての勉強会は3月24日をもって最後となる。それ以降の研究活動に向けてこの「LLC制度研究会」[http://llc.a.la9.jp](http://llc.a.la9.jpの他にブログSite)の他にブログSiteも用意しようと考えている。定期的オフ会も開いてみようかと考えている。

その作業に年末年始をあてる予定。次号も、そしてrenewalする来春も、請うご期待。